

ベビーゲート等を安全に使いましょう！

ベビーゲートやベビーフェンスは、乳幼児にとって危険を生じるおそれのある階段や台所などに立ち入らせないことで、転落ややけどなどの事故の防止に有効な商品です。一方で、取り付け方や使い方などを誤ると、その機能が発揮されず、事故につながるおそれがあります。

実際にベビーゲート等による身体の挟み込みや商品の外れによる転落事故などが起きていることから、都は、消費者、事業者、学識経験者等で構成する東京都商品等安全対策協議会において、さらなる安全確保の検討を開始し、取組を進めていきます。

以下のような事故、ヒヤリとしたりハツとした事例があります。

<身体の挟み込み等>

- 台所の入り口につけたスチール製格子状のベビーゲートに乳児の孫の足が挟まり抜けなくなった。^{※1}
- 自宅にベビーゲートを設置したところ、ゲートの開閉部に乳児の首が挟まり、顔面に浮腫等の症状がでた。^{※1}
- ベビーゲートの開閉部にうつ伏せで首が挟まっている長男を発見した。^{※1}
- ベビーゲートのロックの先がとがっていて、柵を開けたままにしてしまった時、子供の目の高さと同じだったため、目に刺さりそうになった。^{※2}

<商品の外れによる転落等>

- 台所とリビングの境に設置してある柵が、子供が寄りかかったりする重みで徐々にずれていき、子供が手をついた時に思い切り外れてしまい転倒しそうになった。^{※2}
- 玄関に行ってしまうないように柵をしていたが、息子が面白がつてつかまりはしゃいでいたら、外れて一緒に倒れこんだ。^{※2}
- 階段ゲートを取り付けていたが、上の子が、親の見えていない間にロックを外していたようで、下の子が誤ってそれを開けて、転げ落ちてしまった。^{※2}

※1 事故情報データベースシステム登録事故情報（消費者庁・（独）国民生活センター）

※2 ヒヤリ・ハット調査「乳幼児を育てるために使う製品による危険」（平成27年10月 東京都生活文化局）



【参考】

国内で販売されるベビーゲートの対象年齢は24ヶ月（0歳、1歳）までとなっています。一方、東京消防庁のとりまとめによると、0歳、1歳の救急搬送事例で最も多いのが転落事故で、その場所は階段が0歳で5位、1歳で1位となっています。

ベビーゲートを使用することで、これらの階段での転落事故を防止できる可能性があります。

出典：東京消防庁「平成29年救急搬送データからみる日常生活の事故」

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/topics/201810/nichijoujiko/index.html>

東京都商品等安全対策協議会についてこちらをご覧ください。

東京暮らしWEB 東京都商品等安全対策協議会 「ベビーゲート等の使用に関する安全確保」

https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzen/kyougikai/r1/r1_contents.html

問合せ先 東京都生活文化局消費生活部生活安全課

TEL 03-5388-3082

その他の危害危険情報はこちら。

 **東京暮らしWEB** 

<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzen/kigai.html>

